令和６年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立西小学校

１．昨年度の学力向上の取組みの成果と課題

昨年度の全国学力・学習状況調査から国語と算数の課題を、次のように捉えました。

国語では、

１．「書くこと」に関して、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書くこと。

２．「読むこと」に関しては、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

算数では、

１.数量の関係に着目して、問題場面を解釈し、数学的に表現・処理をしたり、計算に関して成り立つ性質を基に計算を考えたりすること。

２.伴って変わる二つの数量が比例の　関係にあることを理解すること。

これらを受けて、昨年度は、校内研究において、国語科を中心に研究し、根拠をもって、思いや考えを書くことを中心に、実践を積み重ねてきた。自分の考えを、ペアやグループ、全体で話し合うことを通して、根拠を明確にし、納得できる意見へと深められるように授業改善を行ってきました。

また、本校独自に行っている調査問題を実施し、「事実と意見を明確にする」や「要約して文章にする」などをキーワードに分析を行い、学年で意識しながら授業づくりをしたり、研修会を開いたりして、授業改善に取り組んできました。

これらの取組みから、系統性を意識することの重要性に気づき、系統表を作成し、「要約する力」など、各学年において子どもたちが「要約」の理解すべき内容について、校内で明確にすることができました。

１人１台端末の活用においては、端末に触れる機会を増やすようにした。朝の学習や宿題等で、タブレットドリルを用いて、漢字や計算問題の反復練習や言語理解の充実に取り組んできました。

以上のような取組みを通して、自分の考えをまとめたり、それを表現したりすることに抵抗なく取り掛かれるようになり、聞く人や読む人に伝わりやすくするにはどのようにすればよいかを意識することができるようになってきました。

しかしながら、国語においては、情報量が増えたり、知らない言葉が出てくると、それらを読み取ったり、必要な情報を選択することが難しくなる児童が多くいます。算数においては、問いの状況を的確にイメージすることの苦手さや、学んだことを活用して発展させることに課題が見られます。

２．教科における成果と課題について

【成果】

〇国語では、無解答率が全般的に低く、最後まで粘り強く問題に取り組もうとする姿勢が見られました。「話すこと・聞くこと」の領域で、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる問題で良好な結果でした。昨年度からどの教科においても話し合い活動を取り入れ、１人１台端末を効果的に活用し、考えをまとめたり、発表のツールに使用したりした成果が表れています。

〇算数では、「数と計算」の領域で、除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解することができていました。日ごろから大小関係に着目できるように数直線を使って数量を適切に処理する活動を継続してきた成果が表れています。また、「データの活用」の領域では、円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る問題で良好な結果でした。昨年度から継続して、学習活動において実際の生活場面を想定し、表やグラフ、図などを身近に感じられる工夫を取り入れてきたことが成果に表れています。

【課題】

〇国語では、「話すこと・聞くこと」の領域の「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができる」において課題が見られました。グループで話し合ったり検討したりする活動をする際に、一人ひとりが自分の考えをしっかり持って参加できるような授業展開になるよう重点的に取り組んでまいります。

　また、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の主語と述語との関係を捉える問題において課題が見られました。文を書いたり読んだりするときに、主語と述語との関係や修飾と被修飾との関係など文の構成要素に注目させることをより意識できるよう取り組んでまいります。

〇算数では、「変化と関係」の領域の「速さ」の単元について、課題が見られました。異種の二つの量の割合として捉えられる数量の比べ方や表し方について理解を深め、日常生活での様々な問題場面でも解決に向かっていけるよう、目的に応じて大きさを比べたり表現したりできるように取り組んでまいります。

　また、「データの活用」の領域では、示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、解答する設問に課題が見られました。今後も、知りたい数量の大きさの求め方について、図や式・言葉を用いながら考えを交流する場の充実を図り、正確に問題を捉えられるように取り組んでまいります。

〇問題形式別では、記述式の問題に課題が見られました。答えの根拠となる理由や、グラフから読み取ったことなどを言葉や数を用いて記述することが苦手な傾向にあります。ふだんの学習において、記述することの良さを感じられるような説明をしたり、考えをまとめたりする場面を増やしてまいります。

【別紙様式】

３．児童生徒質問紙調査について

項目	肯定的割合（%）		
	R5 本校	R6　本校	R6 全国
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	69.4	66.1	83.5
英語の勉強は好きですか	81.7	61.3	69.3
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	95.9	95.2	96.7
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。	65.3	72.6	67.1
自分の生活の中で、幸せな気持ちになることは、どれくらいありますか。	91.8	95.1	91.7

〇市の方針である「グローカル人材の育成」に関する項目について、児童質問調査の結果から考察すると、地域に関する項目では、全国平均を大きく下回っています。本校では、コミュニティ・スクールとなり、地域学校協働活動推進員が積極的に地域の方に呼びかけて、地域学習を充実させているところです。さんとまつりの体験講座、消防団の訪問授業やまちたんけん、お米作りなど、多くの地域の方と直接触れ合う機会は充実したものとなっています。しかし、これらの活動は地域の方が学校へ来てくださるという受け身の学びであり、子どもたちが地域へ出向いたり、学んだことを活用したりする機会は少なかったため、子どもたちが「地域に何かしたい」という意識や姿勢をもたせることが不十分だったと思われます。そこで、今後、子どもたちが地域に還元できるような活動にも取り組んでいきます。

〇英語に関する項目について、児童質問調査の結果は全国平均を下回っていました。英語の授業では、学んだことを使ってコミュニケーションをとることを中心に学習してきました。子どもたちが、もっと英語を好きになれるよう、ペアやグループなど、友だちと楽しく学べるよう、活動を工夫してまいります。

〇残りの学校生活に関する項目３点について児童質問調査の結果は、全国平均並み、または、上回る結果でありました。おもしろいこと、楽しいことだけでなく、悩むこと、悲しいことなど、複雑に絡まった毎日を過ごしています。本校では、学級担任をはじめ、養護教諭や担任外の教員など、チームで子どもを見守る体制をつくり、一人ひとりの思いを丁寧に聞き取りながら対話を重ねています。心が激しく揺れ動く中で、幸福感を感じている児童が多いのは、その成果だと思われます。しかし、「人の役に立つ人間になりたい」や「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「人が困っているときは進んで助けていますか」といった項目について、全国平均を下回っていました。このことから、本校の子どもたちは、人に対して積極的に働きかけようとすることに課題があることがうかがわれます。子どもたちがつながる活動や、協力したり助け合ったりすることのよさを学ぶ機会をたくさん設定してまいります。

〇児童質問調査で、「国語の学習は好きですか。大切だと思いますか。よく分かりますか。」や「算数の勉強は好きですか。大切だと思いますか。よく分かりますか。」といった教科に

ついての意識を問う質問に対して、積極的な肯定意見（「当てはまる」と回答）の割合は、全国を上回るか同等の結果でした。授業で、基本的な教科内容について、一つずつ確実に理解できるようにゆっくりと進めていることの結果と思われます。しかしながら、消極的な肯定意見（「どちらかといえば当てはまる」と回答）を含めると、全国平均を下回る項目も見受けられました。これは、学習した内容を、応用・発展・活用する場面が少なく、難しい問題に出合うと、どのように考えたらよいかわからないと思う子どもが多くいるからだと思われます。

本校では、「根拠をもって書く」ことを研究テーマに取り組んでいます。考えの理由を書いたり、学んだことをまとめたりする活動を通して、テーマに迫る実践を積み重ねてきました。しかし、そのようにして学んだことや身につけたことを、応用・発展・活用していくことへと研究を進ませる必要があることが分かりました。

以上、グローカル人材の育成、学校生活面、学習の結果をみてきました。本校は、基本的な学びについては努力を重ねている反面、受け身であることが多く、学んだことや身に付けたことを応用・発展・活用するなど、他者（人、物、こと）に対して、積極的に働きかけていくことに、弱みがあることがみえてきました。今後、基本的な学びを応用・発展・活用する実践を積み重ねていくことで、子どもにとって豊かな学校生活を作り出せるよう、取り組んでいきます。